

加, 室温 25°C にてかくはんしながら 30 分 incubation し, そのまま患者に投与すればよい. ただし標識率と投与後 1 日目のフリー ^{51}Cr をチェックしておく必要がある.

27. フェリチンのラジオイムノアッセイ法の検討

林 大三郎
(名大・放 RI)
斎藤 宏
(同・放)

われわれはフェリチン測定にサンドイッチ法 (スパックフェリチン) を使用してきたが, 測定値に疑問点が生じたので, 二抗体法 (ガンマダブフェリチン) の検討も交えて, その再検討を行った.

スパックフェリチン (Y) とガンマダブフェリチン (X) の相関は, $Y=1.068X-12.4$, $r=0.985$ であった. 中, 高濃度では双方に値の差は少ないが, 低濃度ではスパックフェリチンがかなり低目の値となった. 正常値でも同一検体でスパックは, 男, $102.9 \pm 61.8 \text{ ng/ml}$, 女 $22.4 \pm 16.3 \text{ ng/ml}$ であったのに対して, ガンマダブは, 男 $109.4 \pm 56.9 \text{ ng/ml}$, 女 $36.0 \pm 24.4 \text{ ng/ml}$ となり, 低濃度で差が大きかった. 精度は, ガンマダブで $CV=2.3 \sim 5.0\%$ でスパックは $CV=5.5 \sim 13.9\%$ であった. スパックでの回収率は低濃度 (14.4 ng/ml) で 77.9% と低かった. また, スパックの高フェリチン血清の測定において, B/T (%) の低下 (逆転現象) がみられ, 希釈再検の要否の規準は 300 ng/ml 以上から行なうことが望ましい. また, 希釈値は感度, 精度からみて $80 \sim 190 \text{ ng/ml}$ に入る値が最も信頼できるものと思われる.

28. 貧血検診におけるフェリチン (Ft) と TIBC, UIBC, SI のラジオアッセイの臨床的意義

斎藤 宏
(名大・放)
林 大三郎
(同・放 RI)

女子 48 名, 男子 29 名からなる某社の健康診断にさいし, Ft, TIBC, UIBC, SI の測定を行ない, 貧血, 特に鉄欠性貧血 (IDA) の頻度をしらべた.

女子のうち Ft を測定したのは 46 例で, 貧血 (Hb 12 g/dl 以下) は 5 例, そのうち IDA は 4 名 (9%) であった. IDA ではないが貯蔵鉄欠乏 (ID) を示したのは 41 名 (89%) に達した. 男子には IDA は 1 例もなかったが, 慢性肝炎で Ft 高値例があった. これらの疾患の発見上, Ft はきわめて有用であった. 貧血はあるが Ft は正常範囲程度のもは女子で 1 例みられた. IDA 例では, Ft は 10 ng/ml 以下, TIBC は 400 以上, SI は $43 \mu\text{g/dl}$ 以下, 飽和度は 10% 以下であった.

正常人男子と女子との間には著しい Ft 値の差がみられた. Ft の測定には第 1 ラジオアイソトープ社 Spac と, トラベノール社ガンマダブを用いた. Spac は低 Ft 値側で低い値を示し, IDA では 6 ng/ml 以下であった. ガンマダブは 10 ng/ml 以下であった. IDA 発見率は両社の Ft 値に差はあっても, 同率であった. 9% の IDA 発見率は米国の成績とも一致する.

29. ガンマーコートシステムによる甲状腺検査 ($T_3\text{U}$, T_3 , T_4 , FT_4) 法の検討

林 大三郎
(名大・放 RI)
斎藤 宏
(同・放)
満間 照典
(愛知医大・内)

われわれは, 試験管固相法 (ガンマコート) による $T_3\text{U}$, T_3 , T_4 , FT_4 を検討した.